



QFN通信

Qshu Forest Network News

NPO法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 佐藤宣子

新年明けましておめでとうございます。

九州森林ネットワークも法人化して3年目を迎えます。これまでは年に2回のフォーラム開催が中心でしたが、今年は分科会的な研究活動や地域独自の活動などを通じて、山と町のネットワーク形成を応援していきたいと存じます。

先の11月に第6回フォーラムに合わせて開催されました年次総会において、新しい理事体制を選出頂きました。力及びませんが引き続き理事長に再任されました。どうぞ、今後ともご協力を宜しくお願い致します。また、総会では5名の方が新しく理事に就任されました。そのことによって、これまで上津江、小国、諸塚の3つだった山が、浮羽、球磨と広がり、製材所と大工という木に関する技術者と音響設計の研究者も加わって、幅と厚みのある理事メンバーとなりました。

本QFN通信第5号では新しい理事のメッセージの他、2月に第3回森林・木材認証フォーラムに共催という形で開催する第7回九州森林フォーラムの案内を掲載しております。是非、ご参加下さい。

好景気と言われながら豊かさを実感できない地方と同じ文脈で捉えられる、木材自給率の向上で林業活性化と言われながら低木材価格にあえぐ山元・・・という構図は九州で最も顕著だと思えます。山元からの発信する力と、実態を踏まえた解決のための構想力、当NPO故にできることは何かを議論しながら活動していきたいと思えます。どうぞ、今年も宜しくお願い致します。



ネットワークキャラクター
「やまと熱人くん」

通巻第5号 2007 春

発行日 2007. 1. 1

<発行> since 2005.6.1
NPO九州森林ネットワーク
事務局：熊本県小国町森林組合
<編集責任>
宮崎・諸塚オフィス
<担当オフィス>



目次

第6回九州森林フォーラム	2~3
Blogぶろぐブログ	4
新理事あいさつ	5
お知らせNEWS	6

第6回九州森林フォーラムの報告

テーマ「国産材積極活用のリアリズム～持続可能な木の家づくりのために～」

第6回九州森林フォーラムは、昨年11月10日～11日に、福岡市内で開催されました。

〔第1日目 11月10日 金曜日〕 参加者 38名

○現場見学会○ 13:00～

1. 西村工務店「もりの家」(大野城市)
2. 古民家の移築料亭「よひら」(福岡市西区)
3. 安成工務店「森づくりの家ORGA(津江杉の家)」
モデルルーム

○懇親会○ 18:30～ 三井アーバンホテルにて

福岡市周辺の建築案件の見学会を実施しました。現場で行われている様々な努力を実際見て、あらためて木の家づくりの可能性の大きさを感じました。

懇親会には、九州各地からお集まりいただき、様々な方面からの意見交換ができました。

第2日目 11月11日 土曜日〕 会場：九州大学国際ホール
参加70名

○九州森林フォーラム○ 10:30～

基調対談 野池政宏(住まいと環境社・代表)
三浦祐成(新建ハウジング・編集長)

パネルディスカッション

＜コーディネーター＞西村敏彦(九州森林ネットワーク理事)

＜パネリスト＞野池政宏(住まいと環境社・代表)
三浦祐成(新建ハウジング・編集長)
村瀬安英(九州大学教授・木材工学専攻)
川崎 薫(建築構造設計士)
永井修文(アトリエN建築工房)

テーマを「国産材のリアリズム」として、国産材普及のポイントはつくる側＝工務店のスタンスにあるという点に重点を置き、建築技術および工務店経営の側面からの国産材の普及策に関して熱い議論が展開されました。パネリストの切り込みもズバツとした本質論で非常に面白いディスカッションでした。山のことを(ある意味山の人以上に)深く考えてくれる人たちがこんなにいるのだということに深い敬愛の念を持ちました。



第2日目 11月11日 土曜日〕 会場：九州大学国際ホール

○九州森林ネットワーク総会○ 09:00～

1. 17年度事業報告および決算書審議(別紙のとおり)
2. 18年度事業計画および予算書審議(別紙のとおり)
3. 定款変更について

上津江町に追加して従たる事務所を小国町、諸塚村とし、事務局を輪番制にしました。
あわせて、理事の定員を15人から20人に増員しました。

4. 役員改選について

改選に伴い、各サテライト理事の交代、および新分野の理事が選任されました。

※事務局が今期から小国町森林組合の担当になります。宜しくお願いします。

トライウッド事務局の皆さんお疲れさまでした。

主催者より

★第6回九州森林フォーラムにたくさんの方々の参加いただきありがとうございました。野池氏、三浦氏お二人の速射砲のような基調対論の展開にあわててしまい、その後のパネルディスカッションが用意していた進行と異なり迷走する場面もあり、汗顔至極であります……。

さて、上記のテーマについて無料ではありますが、コーディネーターとして解題を行い整理をしたいと思えます。

2002年の建築基準法改正以降（性能表示制度以降）をとっても、国産材の需要が伸びないことは論を待たない。今までの国産材活用の動きは産直住宅運動のような“情緒”を核にしたものであった。これは特殊解ともいべき手法であり、一般解の手法を山と町が連携を取りながら進めていかなければならない。

国産材の需要を伸ばす一般解の手法とは「普通の家」に使うべくごくシンプルなことである。ごく平均的な住宅取得者がごく平均的なつくり手に頼む家づくりにおいて、国産材が使われるようになればよいのである。

産直住宅運動のような特殊解は「できれば環境にやさしい家を」と考えている比較的資金力のある住まい手が購買層であったとあってよい。ごく平均的な住宅取得者に対し、例えばデザイン面で言えば、真壁のデザインにこだわらず大壁のデザインにして、構造材は国産材という手法は重要である。つくり手は国産材利用をあえてアピールせずに国産材を内部化し、他の面でアピールし、多彩に戦略的展開をおこなう。山側に求められるものは、ヤング係数・乾燥を担保しラベリングした材料としての製材品を供給するという姿勢である。

この一般解の手法を流域の川上と川下がネットワークを図りながら、トレーサビリティやストックの問題をも含めてトータルに進めてゆくことが重要だと思われる。

（理事 西村敏彦）

★第6回九州森林フォーラムにご参加頂いた皆様。初日の住宅見学会に続き、11日には熱心な議論を頂き、有り難うございました。野池、三浦両氏の絶妙で的をついた対談、午後の各専門分野からの意見が出たパネルディスカッションも大変内容の濃いフォーラムとなりました。

総会も無事に行うことが出来、5人が新理事メンバーになって頂きました。また、NPO法人化前の連絡協議会から足かけ5年間にわたって、事務局を担当して頂いたトライウッドの皆さん、大変お世話さまでした。今年度からは小国町森林組合に事務局を担当して頂くことになりました。宜しく、お願いします！（理事長 佐藤宣子）



昨年10月、NHK九州・沖縄金曜日ポートで「森が消える～急増するハゲ山の舞台裏」という再造林放棄地の広がりに関する番組がありました。九州森林ネットワークのBlogでこの話題が取り上げられましたので掲載します。

放送を見ました。本当に残念です。

小生は63歳ですがまだ現役です。子供時代は田舎で育ち、生い茂った裏山で良く遊び小鳥取りや山菜取り等々今でも懐かしく思っています。山は植林をし、木が生き生きと伸び伸びと茂っていなければ山ではありません。それが、緑濃い九州の山です。信州のアルプス（高山）や播州地方のやせこけた山と違います。〈以下省略〉

本当に残念です

（福岡県 Tさん）

コメント、有り難うございます。番組は木材を皆伐すること全て悪と取られかねない構成で、首をかしげる点もありましたが、無秩序な伐採とその後の放棄というのは、非常に大きな問題です。

（福岡／佐藤）

TさんのBlogからの抜粋です。

【市場原理では対処できない森林破壊の現実】

（略）NHK大分支局の制作でしたので、大分県での例を取り上げておりましたが、おそらく、九州に限らず、日本全国で起きている現象なのだろうと思います。

無秩序な伐採が問題

実は、私自身、老後は大分県か山口県に住みたいと思っておりました、特に、番組中で取り上げられていた「耶馬溪」というところは、私の大好きなところのひとつであり、環境破壊の現実の前に本当に胸が痛みました・・・。

こういう樹木に関する考え方としては、以前、平太郎独白録「銘木ばかりが木に非ずー雑木保護」で述べたのですが、こちらの問題は、似て非なる問題のようです。（中略）となれば、これまでのように、根っこを残したまま、一本一本、木を切っていたのでは、コスト競争で、外国産木材に太刀打ち出来ないのだそうで、となると、重機を入れて、そのまま、木を根っ子ごと引き抜く、「皆抜」でないとおわれないのだそうです。（中略）さらに、木を切り出した後に、苗木を植えず放置されている例も多いそうで、このままでは、防災面での治山治水効果、つまり、地滑り、地崩れの危険という点で、大いに危惧されているのだとか・・・。

従来のような植林の費用が出ないということなのでしょうが、これに限らず、最近、とかく、こういう市場原理の限界というものを見せつけられることが多いような気がします。

市場原理を全く無視してもいけないし、市場原理だけでもだめ・・・。難しいところでしょうが、やはり、片方を信奉するのではなく、ある程度、うまく、組み合わせさせて使っていかなければならないのだらうと思います。（以下略）

理事訪問⑤ ～九州森林ネットワーク新理事あいさつ①！

球磨村Web <http://www.kyusendo.jp/> 球磨村森林組合Web <http://www.kumamura.com/>

多武 義治 理事 (所属：熊本県球磨村村議会議員)

この度、九州森林ネットワーク理事に就任いたしました。どうぞよろしく申し上げます。私も今年4回目の年男を迎え、仕事にスポーツに充実した一年にしたいと思っております。

さて、私の住んでおります熊本県の球磨村は県の南部に位置しておりまして、人口が約5,000人、村の面積約20,700haの内90%が山林で占められている純山村です。村の中央を日本三大急流の球磨川が横切るように流れており農林業の他、大鍾乳洞「球泉洞」一勝地温泉「かわせみ」等、観光にも力を入れている村です。

私も高校卒業後、球磨村森林組合に就職し以来28年間林業に携わってきましたが、昨年組合を退職し現在は村議会議員としての活動を行なっているところです。

組合に就職した昭和53年当時を振り返ってみますと林業もまだ盛んな頃でした。山で働く作業員の人達も当時は300人を超えていましたが、現在は60人に減少しています。

逆に増えたものはシカの頭数です。当時は年間2、3回しか見なかったものが、現在では、山に行かなくても自宅近くでも毎日のように見かけるようになりました。農作物、植林した苗木等の被害、20年も30年も育てたスギ、ヒノキなどへの剥皮被害、この村のみならず全国的に深刻な問題となっております。

又、大規模に伐採しその後植林しない皆伐放置林も増えております。大規模伐採の要因は長びく木材価格の低迷により大規模かつ大量に伐採をしないと採算が合わなくなっている為です。搬出方法も以前の架線集材に変わり林内に重機を入れ搬出道を作りながら出す方法に変わっています。その結果大雨時に土砂が川に流れ込み川を長期間にわたって濁したり、土砂崩壊の危険性も大幅に増しています。このように林業を取り巻く情勢が厳しい中なんとかして林業の再生をしなければならぬと願っている一人です。九州の川上と川下の人達が情報を交換し、森林の現実を理解し健全な森林を作り上げていかなければならないと思っています。

今後ともよろしく申し上げます。

写真：

球磨村球泉洞周辺 (球泉洞Webより)



九州森林ネットワークのBlog

NPO九州森林ネットワークの「山と緑の最新情報」Blog。環境教育、緑の雇用、Uターン、ワーキングホリデー、山のつばやき、自然派住宅、室内環境etc…。九州の山と街のリアルタイムの情報が満載です。是非ご覧ください。 <http://www.geocities.jp/shinrin9net/>

★第7回九州森林フォーラムin日向のお知らせ★ (共催：第3回森林・木材認証フォーラム)



■開催日：平成19年2月9日(金)～10日(土)

■会場：宮崎県日向市

■テーマ：「国産材積極活用のリアリズム ～山からの叫び・木の家と認証の森をつなげる～」

今回の九州森林フォーラムは、第6回のテーマを受け、山側から森林認証というキーワードを通して、よりリアルに国産材の積極活用の現場を解きほぐします。

プログラム < 第1部 9日 13:00～17:00 >

13:00 現地見学会 宮崎県耳川流域の伐採放棄地調査

15:00 事例報告①素材生産活発化と再造林放棄急増の実態 藤掛一郎氏(宮崎大学助教授)
②FSC森林認証の現状 佐々木聡子氏(SGS Japan)

18:00 意見交換会・交流会

< 第2部 10日 09:30～15:00 >

9:30 開式 主催者および来賓あいさつ

9:40 基調講演①「木の家を都市へ～都市の住宅ニーズを捉える」小池一三氏(有)小池創作所
②「新生産システムの目指すもの」堺 正紘氏(九州大学名誉教授)

【 昼食 12:00～13:00 】

13:00 パネルディスカッション 「森づくりと木の家づくりをつなぐ流通システムの可能性」

パネリスト 山田壽夫氏(林野庁九州森林管理局長) 松下修氏(松下生活研究所)
佐藤宣子氏(九州大学助教授) 甲斐若佐氏(耳川広域森林組合参事)
小池一三氏(有)小池創作所 佐々木聡子氏(SGS Japan)

14:45 「素敵なスギクラフト」コンテスト表彰式

■お問い合わせ・お申し込み 九州森林ネットワーク諸塚オフィス(諸塚村産直住宅推進室事務局)

〒883-1301 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代3068

Tel.0982-65-0178 Fax0982-65-0189 ecom@vill.morotsuka.miyazaki.jp

*****春の学会案内*****

年1回の日本森林学会が、来年度は2007年4月2日(月)～4日(水)に九州大学で開催されます。それに合わせて九州の森林・林業をテーマとした2つのシンポジウムが行われますので、案内します。

◆日本森林学会・日本木材学会合同シンポジウム

「森と木と環境 part3 一森林・林業のゆくえ/九州の現場最前線から一」

日時：4月2日(月) 14:00～17:30 場所：九州大学視聴覚ホール

パネリストと演題：

山田壽夫氏(九州森林管理局長)：新国産材時代における国有林の役割～九州森林管理局の取り組み～

堀川保幸氏(中国木材代表取締役社長)：異樹種集成材技術の確立とスギ材需要の拡大

安成信次氏(安成工務店社長)：地域材を活用した自然共生型住宅と地域工務店の役割

矢房孝広氏(諸塚村産直住宅推進室事務局長)：村ぐるみの森林認証取得と町と結ぶ産直住宅

土井裕子氏(NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク理事長)：上下流連携による山村の仕事おこしと地域づくり

寺岡行雄氏(鹿児島大学助教授、もうかる林業研究会事務局長)：儲かる林業のために何が必要か-鹿児島での取り組み-

コーディネーター：佐藤宣子(九州大学助教授) 参加費：無料

◆林業経済学会2007年春季シンポジウム

「南九州の大規模皆伐・再造林放棄にみる林業構造問題」

日時：4月4日(水) 9:30～16:00 場所：九州大学農学部5号館

117号室

報告者・報告題目：

遠藤日雄氏(鹿児島大学)：国産材価格下落の要因分析-九州の動向を中心として-

藤掛一郎氏(宮崎大学)

：宮崎県における民有人工林素材生産の活発化と再造林放棄

興梶克久氏(九州大学)：南九州における再造林放棄と森林保有構造-宮崎県を事例に-

座長：餅田治之氏(筑波大学) 資料代：1500円

